



問合先: 岩手大学教育学部 〒020-8550 岩手県盛岡市上田3丁目18番33号 TEL.019-621-6504 FAX.019-621-6600  
E-mail edu jim@iwate-u.ac.jp URL http://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/

この冊子はグリーン購入法に基づき基本方針の判断基準を満たす用紙を使用しています。



「教育実践研究の成果」公開中  
教職大学院ホームページにてご覧いただけます!

<https://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/>

岩手大学大学院教育学研究科研究年報  
オンラインISSN 2432-924X

第1巻

- 山本奨・大谷哲弘・信夫辰規・吉田隆・菊池知之・高橋康次・佐々木康人・大越淳・砂沢剛・坪谷有也 (2017): 認知の再構成プログラムの小学生への適用
- 森本晋也・土屋直人 (2017): 震災を生き抜いた子どもたちが学んだ津波の歴史と防災 地域に学ぶ教育実践の記録・釜石東中学校(1) (ほか10編)

第2巻

- 小山聖佳・東信之・佐々木全 (2018): 特別支援教育コーディネーターの外部支援に関する課題意識:A 県内の特別支援学校におけるインタビュー調査から
- 辻裕美香・立花正男 (2018): 数学的な考え方を高めるための振り返りのあり方
- 清水将・村田雄大・菊池紗江・花館めぐみ (2018): 教職大学院における附属幼稚園実習の意義 (ほか15編)

## 日々の教職大学院での学び

教職大学院では、教育に関わる実践的力量を磨き高めようとするものです。本号では、地域の連携協力校等とのかかわり(学校公開研究会への参加、専門実習)の中で実践知を求め

る院生の姿や、講義を通じて理論知を求め

理論と  
実践の  
融合。

る院生の姿、そして両者を往還する院生の姿をお伝えいたします。

## 学校公開への参加とリフレクション

〔学卒院生(M2)〕 村田 雄大

教職大学院では、連携協力校を中心に、県内各地の学校公開に参加できる機会が多数設けられています。直後に行われるリフレクションでは、校内研究や授業の在り方について検討し、学びを深めています。より多くの教育現場や質の高い授業を見ることで、即戦力となれるよう努力しています。

## 小・中学校の公開参加における学び

〔現職院生(M2)〕 三上 浩永

私の校種は高校ですが、教職大学院においては他校種の学校公開に参加する機会を得ることができています。これまで、連携協力校や小中一貫校での公開に参加しては、その後のリフレクションで学びを深めてきました。小学校から高等学校までを見通した上でどのような資質・能力をつけていべきか、校種を越えた連携を考えられるようになったと感じています。



高等学校における  
総合実習にて  
〔学卒院生(M1)〕  
菊池 はるひ

高校生は社会に出る時期が近いことから、社会という集団の中でも自己実現が出来るように、目標を明確化し、計画性のある生活を送ることが求められます。そのような時期にある生徒と関わる実習校の先生方は共通して、教科、生活指導の中で肯定的なフィードバックをよく行っていました。そのことが生徒の自己肯定感を高め、積極的な授業態度、自己実現への前向きな取り組みに繋がっているのだと感じました。高校に進学するまでに育みたい子ども達の力など、教師が系統的な視点を持って指導、支援を行っていくことの必要性を学ぶことができました。

「学校経営の実践と課題」の授業は、学校ビジョンの設定や組織開発の方法等について理解することをねらいとしています。先日の講義でも、研究実践や授業公開等を積み重ねる日

講義  
「学校経営の  
実践と課題」  
を受講して  
〔現職院生(M1)〕  
木村 洋

本の教師文化が世界レベルで優れていることを学びました。学校現場での実践を常にイメージしながら、今後の学びをさらに深めていきたいと思っています。



支援員や相談員の体験をとおして、個に応じた支援の在り方について学んでいます。学校カウンセリングの立場から指導や支援を考えると、これまでとは違った動きかけがあることに気付きます。子どもが抱える困りや悩み、置かれている環境を理解し、適切な支援ができるように今後も学びを深めていきたいと思っています。

子ども支援力  
開発実習  
〔現職院生(M1)〕  
町畑 光明



教職大学院では授業と実習・公開を結びつけることで自己の学びを深化させています。「いわての復興教育」の授業では、地域と協働した防災教育の実践を学び、先日行われた「小中一貫教育全国サミットinおつち」では、地域コーディネーターの役割とその可能性を理解しました。これらによ

講義  
「いわての復興教育」  
を受講して  
〔学卒院生(M1)〕  
関川 健生

って、復興教育には学校と地域の連携が欠かせないものを知り、その在り方を探求したいと考えました。



## 教育学研究科教員挨拶

特命教授(実務家教員) 小岩 和彦

3年目を迎えた教職大学院。2回目の修了生を送り出すまで、あとわずか4ヶ月となりました。

今年度は、実務家教員が分担をして、今年3月に修了した第一期生が赴任した学校等を訪問し、修了生の皆さんの様子を伺ってきました。管理職として精力的に学校経営を担っている方、各地区のリーダーとして様々な教育活動を牽引している方、教育行政で手腕を發揮している方、そして即戦力として、様々な悩みながらも前向きに授業や学級経営に奮闘している学卒一期生の皆さん。

それぞれ立場は違いますが、教職大学院で学んだことを最大限に生かしながら教育活動を行っている様子をお聞きすることができました。学校現場での修了生の皆さんの姿は、本教職大学院で目指している姿であり、本当に素晴らしいものを知り、その在り方を探求したいと考えました。

二期生・三期生の皆さんも、来たるべき時に備え、更に学修を積み重ねていただきたいと思います。

